# 鹿児島大学歯学部創立30周年によせて

鹿児島大学歯学部同窓会会長　佐　藤　裕　幸

この度は歯学部創立30周年，誠におめでとうございます。昭和53年に第一期生が入学してから早いものでもう30年が過ぎたのですね。私たち同窓会も今年創立25周年を迎えました。会員数もすでに1,590名を数え，多くは日本全国各地において地域歯科医療の第一線で活躍しております。

私たち開業医の日常臨床において，技術や材料，設備機器等の進歩・発展は日進月歩であり，生涯学び続けていかなければ良い医療を提供していくことはできないものであります。私も勤務医時代や開業以来，様々な有料研修会を受講することによって最新の技術を学び，それを毎日の臨床に応用し，その経過を見ることによって学び続けてきました。しかし，何と言っても鹿児島大学歯学部在学中に学んだ基本が，20年以上たった現在でも，自身の歯科医師としてのベースになっていることは事実ですし，今，改めてあの頃に学んだことの大切さを痛感しています。正直言って，もっと真面目に勉強しておけばよかったと今になって思います。

現在は歯科医師過剰時代と言われ，我々開業医にとって非常に厳しい外部環境であることは間違いありません。では，歯学部にとってはどうでしょう。歯学部においては，最近大きく二つの変化がありました。

まず，平成16年より鹿児島大学が法人化されたことです。法人化により国立大学時代よりも色々な点で厳しい状況になってきているようです。事務職員だけでなく，本来，臨床や研究・教育を行うべき先生方が大学改革のために時間を使わなければならない状況というのは，教育を受ける学生や医療を受ける患者様にとって果たしてプラスになるのだろうかと思うこともあります。しかし，この改革を乗り越えることで，素晴らしい教育環境や医療環境を創り上げることができれば，それは歯学部の学生や地域住民の方々への大きな貢献になるだろうと思います。私たち同窓会といたしましても微力ではありますが，できる限りの協力をしてまいります。

次に，平成18年度から歯科医師の臨床研修制度が必修化されたことです。医科においては既に地方の大学における研修医の定員割れが伝えられており，地方の医療において大きな支障が出始めています。歯科においても研修内容の充実した研修施設に人が集中し始めています。より優秀な研修医を確保することは，今後歯学部の研究や病院運営において非常に重要な課題だと思います。どんなに技術や機器が進歩したとしても，やはり歯科医療が人を相手にする限り，また，術者が人である限り，いい人財を確保し，育てていくということが永遠のテーマとなってくると思います。

鹿児島大学歯学部は，南九州唯一の歯科医師養成機関であると同時に，最高の技術を持った歯科専門病院でなければならないと思います。今後さらに発展していくためには，地域住民や地域の開業医からの絶大なる支持を受けるような医療の提供ができるかどうかが大きな分かれ道となるような気がします。

世界に先駆けるような研究をすること，あるいは，臨床的に非常にレベルの高い診療技術を要する歯科医師を養成し，そういう治療を提供できる体制を持てるかどうかなど，他の大学では真似することのできないようなオンリーワンの特長を持つことが重要になってくるのではないかと思います。鹿児島市民や県民からの絶対的な支持があれば，大学や歯学部が危機的な状況になるということは，まずあり得ないでしょう。そのような治療技術の獲得と人財の育成が急務だと感じています。

私たち同窓会も，大学を盛り上げるために「鹿児島大学同窓会連合会」を結成し，他学部同窓会との連携を深める体制を整えました。歯学部同窓会としても，平成11年にスタートした「学生交流会」が，６年前から６年生（一昨年からは研修医も）を対象に「進路相談会」という形に発展し，就職に関する情報提供を行っています。今年は同窓会創立以降初めて，「サークル支援金制度」を立ち上げました。

今までは卒業生に向けた事業を中心に行ってきていましたが，今後は，もっと学生に向けた事業を充実させていくことにより，優秀でやる気のある人財の育成に少しでも関与できたらという熱い念（おも）いを抱いている所でございます。

歯学部創立30周年はあくまでも通過点であり，今後益々発展していくことを願っています。幕末の薩摩の先人たちの熱き心意気のように，大きな夢と希望を持ち，世界に発信できる鹿児島大学歯学部となることを祈念し，お祝いの言葉とさせていただきます。